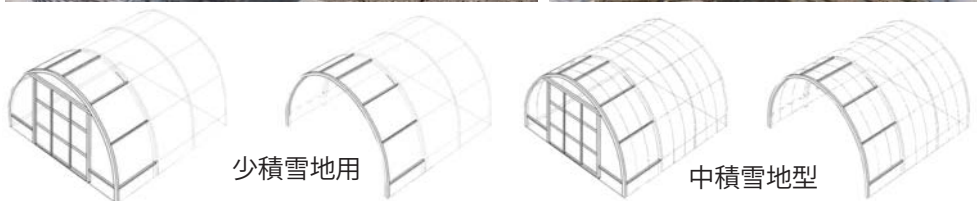


一般型ハウス組合せ



北誠商事・信大など産学官金

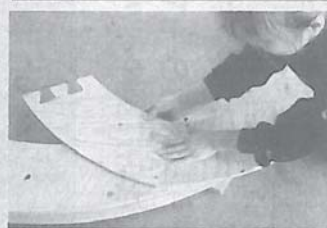
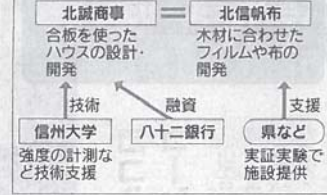
豪雪対応の農業ハウス

長野県産間伐材を活用した「ヒールハウス」の開発で北誠商事・飯山市など産官学金が連携する。薄い板を交互に接着した合板を使って骨組みを作り、豪雪にも耐えられる農業ハウスを実現化する。信州大学が強度の検証で技術協力し、八十二銀行が開発費用を融資する。従来工法より安価で、金属製と比べ風雨に強い「ヒールハウス」をつくり、新規就農者などの利用を促す。

産間伐材活用 金属製より強く

繊維の方向を交互に重ねて熱と圧力で接着する合板は、一本の木だけでつくる木材と比べ強度を安定させやすい点や安価に手に入れやすい点に着目した。北誠商事は間伐材で作る合板を重ねた合板集成フレーム「G-INEX S-FRAME」を開発する。合板を重ねて張り合わせた素材をパズルのように凹凸を合わせて組み立てて作る。骨組みにボルトを埋め込んで板の収縮を防ぐ。木材を使ったハウスは断熱性に優れるほか、金属製の骨組みに比べて強度を3倍程度に高められ、雨風にさらされてもさびにくいという。既に試作品開発に着手し、約10年の重さに耐えられる

県産間伐材の活用へ産学官金が連携する



複数の合板を重ねて骨組みを作る (飯山市)

約10年の重さに耐えられる



日本経済新聞

木造ハウスでイチゴ

信大、通年栽培へ実証事業

飯綱町で

信州大学は20日、長野県飯綱町内に新設したイチゴの通年栽培施設の竣工式を開いた。冬の寒さや積雪が厳しい地域でイチゴの通年栽培を実証する。信大が開発した四季成りイチゴ600株を植えた。



夏のイチゴ生産を強化したい考え。ハウスは北誠商事(飯山市)が施工した。骨組みが木造で、金属製より初期費用がかかるが、断熱性に優れ、暖房費などを削減できるといふ。

飯綱町が農業振興策の一貫で信大に実証事業を依頼し、総事業費は1億5千万円。新設したイチゴハウスは1.5平方メートルで、年間500株程度のイチゴを生産する予定だ。信大が2011年に品種登録した夏秋用イチゴ「信大BS89」をサクランボに次ぐ町の作物にする。夏季栽培品種の中でも糖度が高く、病気に強いのが特徴だ。



飯綱町と信州大学が雪国で通年イチゴ栽培を実証する。木造ハウスの利用により冷暖房費の経費節約が可能。